

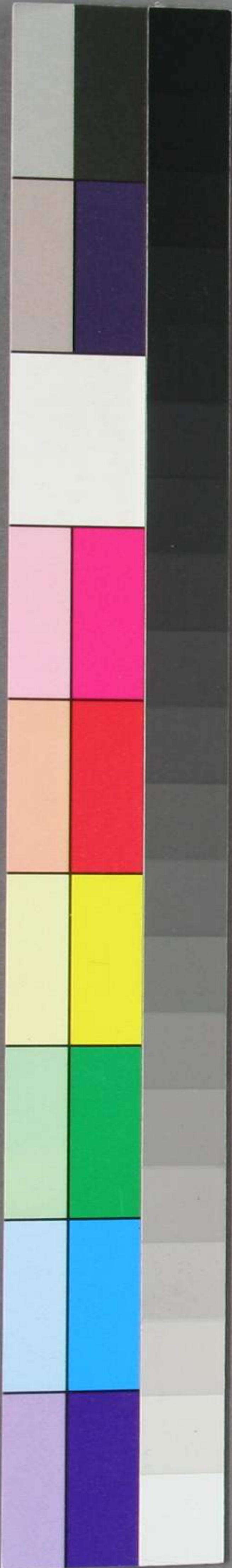
改正

有職小説

73

6309

3止



73
6309
3

有識小説卷

平家物語

水去五味均平蔵

雜篇

撰家

撰政治家ノ中略セル弊也。執柄家執

政治家。家門ナト、云。又近衛殿ヲ陽明殿

ト云。棟梁ノ家ナリ。是ヨリ支流ワカ

レテ。九條。二條。一條。鷹司ト次第セル

支トゾ

清華

撰家ノ公達。関自職ニ補セラレズ



不言川言

シテ。終シク享エン有レシ子孫ノ家ナリ。轉テン法ホウ輪リン。
西園寺。德大寺。菊亭。花山院。大炊御
門。久我ナリ。凡拱家ハ殿上入。諸大夫ニ
テヲ召仕ツカハル清華家ニハ殿上入ナシ。
諸大夫ニテナリ

英雄三家。中院。閑院。華山院。是ヲ華
族ノ公達トテ。拱清ノ外規模キボアル家也
公達。王子皇孫ノ姓ヲ賜タヒタルモ。或ハ太

大臣大將ノ子息。納言中將等ニ至ルヲモ
皆公達ト云。又近衛大將。中將。拜任ノ
家ヲモ公達家ト云ナリ。又ハ殿上
座列。禁中ニテ五拱家ノ次親王家。其次
清華家著坐也。往代ノ流例ナリトシ。
御禮ノ時モ。一番當官ノ左右大臣ニ番
親王家。次ニ前官ノ大臣。次ニ當官ノ内
大臣也。清華家ハ大臣ヨリ次第ニ著

前藏、院下

坐ト云云

大弟オホノイモ 天子ノ御弟ミコノイモヲ云

連枝ツグエ 禁將ノ御兄弟ミコノイモヲ云

外祖ソノソコ 禁將御母方ノ祖父ソノソコヲ外祖ソノソコトシ

祖母ソノソコヲ外祖母ソノソコト云

外戚ソノソコ 禁將ノ御母方ノ伯叔父ソノソコ又ハ近キ

御親類ミコノイモヲ云

太閤オウゴン 関白職セキハクノシヨクヲ辨シシテ天下ノ政務セイムニ預アツカス

スト云へ共、猶内覽ナイラン宣旨ノセンジヲ殘ノコサクル、入イヲ

太閤ト云ノ例也。近代前、関白セキハクタル人。

其子當時、関白セキハクナレハ、其父太閤ト称イハス。

尤其子當時ノ関白セキハク自ナラサル時ハ前、関

白ト云也

禪閣ゼンカク 太閤オウゴン剃髮シツパツノ後ノチヲ云。禪定太閤ノ

中畧ナカリョウナルヘシ

復カヘ辨シ 拱政コウセイヲ天子ミコニ復カヘシ奉ルオウムヲ云

有職小記下

内覧宣旨 天子エ捧ル公事ノ文書ナト
ヲ奏聞スヘキ以前。内見スルヲ云。関
自タル人。此宣旨ヲ蒙ラル義也

官府宣 政務ニ付テ。接関ヨリ書出
ケル文書ヲ云

應宣 別當宣共云リ。檢非違使別當
ノ書下ス文書ヲ云

連署 参議。三位以上。連判ノ文書ヲ云

勘文 天変。地妖ナドノ時。天文。陰陽ノ
家ヨリ。其祥兆ヲ勘テ奏スル文書ヲ云

款狀 諸臣ノ官位ナトヲ望。又ハ歎訴ル
吏ナトノアルヲ。書頭シテ上ル文書ヲ

云。字彙云。款誠也至也

奏狀 天子エ諸臣ノ何ニテモ申上ル文
書ヲ云。上表ノ類也

上表 上ハタテミツルト訓ス。官職ナドヲ

辭退スル時。文章ニ書頭スヲ表ト云。
都テ臣下ヨリ天子エ上ル文書ヲモ表
ト云リ。中華ニテ上古是ヲ敷奏ト云。奏
代其品ヲ四ニ分ツ。其后兼并テ是ヲ
上書ト云。漢魏以來。天子ニ上ルヲ上表
トシ。諸侯ニ進スルヲ上疏ト云。勾會云。
下言於上曰表。文選注云。表明也。標也。
言標著事。序使之明。自以曉主。上得

盡其忠曰表云云

致事 致仕。辭表。皆以テ諸臣ノ官職ヲ
辭退スルヲ云。ツカヘシカヘスト訓ズ。湯王
ノ時。伊尹ヨリ夏起レリ。尚書ニ出タリ。
河海抄ニ致仕者。辭官不辭位階云云
都テ位ヲ止ラルハ。罪科アル時ノ夏
トゾ。禮記云。太夫七十而致事。注云。還
其職事於君也云云。中華ノ書ニ乞

骸骨トアルモ致仕シテ退ク夏ヲ云リ
 解官 長解。病解。理解ノ三等アリ。此
 外ニモ罪ナト有テ。官ヲ取放サル、ヲ云
 左遷 禁將ノ咎ヲ受テ。官秩ナトヲ
 下遷セラル、ヲ云。又流罪ナドニ處セラ
 ル、ヲモ云ヘシ。是ヲハ貶謫共云リ。中華
 ニテ漢魏ヨリ以前ハ。右ヲ尚テ左ヲ
 卑ニス。故ニ天子ヲ捨テ。諸侯ニ仕ルヲ

左官トス。是ニ依テ漢以來唐ニ到テ。罪
 ヲ犯ス者アレハ。或ハ高官ヲ解テ下官
 ニ降レ。或ハ朝廷ヲ遠テ。國郡ノ官ニナ
 スヲ左遷ト云。漢書音義ニ詳也。又
 本朝往古流罪ニ三等アリ。越前。安
 藝ヲ近流トシ。信濃。伊豫ヲ中流トシ。
 伊豆。安房。常陸。佐渡。隱岐。土佐ヲ遠
 流トス。拾菴抄ニ見エタリ

公廨クダゲ 往古井田セイデンノ法ヲ以テ。諸國ニ定メ

置ル、天子ノ御田ミタヲ云。農ノ民是ヲ耕カウ

收ユシテ進イナセシナリ。佃ツクダト云モ是也。但

國クニ守以下。此公廨ノ米イ穀コクヲ處シ分クセシ

夏トソ

正セウ稅ゼイ 往古諸國天子ノ御倉クラ工納ウキメシ稻トウ

穀コクヲ云。俗ニ云、年貢米イナリ

貢賦ミツキモノ 天子エ諸國ヨリ其地ノ產物セモノヲ

捧ルヲ云。是モ正稅ニ等ヒトキ義ナリ。

日本紀ニハ調賦ト書リ。尚書注ニ云、

之所取謂之賦、下之所供謂之貢、

家領カ 堂上家ノ知行シヲ云

御方料ミカタ 公家局ヘヤ任ズノ料シヲ云

勅願所チクガン 天子御草創サウクノ寺院シヤウインヲ云

回錄クワイロク 炎上エンジョウ共云リ。王城ノ失火シツクハヲ云。回

錄トハ火神ノ名也。左氏傳ニ見エタリ

上洛 諸國ヨリ王城工參ルヲ云。又入
京ヲ入洛ト云

參内 朝參共云リ。大内工諸臣ノ伺候
スルヲ云。古事記ニ朝參ヲ。ミカドヲガ

三ト訓ス

御成 渡御共云リ。拱家。門迹方。遠近共
ニ出行ヲ云。飯給ヲ還御ト云。公方家
ニ於テモ。鹿苑院殿以來。御成。還御

ノ辨ヲ用ト云

敬言 躡 前呵。唱道。隱色。皆以テ。サキヲ

フスト訓ス。禁將御出行ノ時。供奉ノ
面々御先ヲ消ヒ。往來ノ非常ヲ止ル

ヲ云。但上江部ノ前呵スルヲ。大サキト
云。殿上ノ勤ルヲ。小サキト云ト。江

談。河海抄ナトニ詳也。前漢書云。出稱

警言。入言。趨。顏。帥。古云。警。戒。肅也。趨。止

左右龍武左右神武左右神策云云

直宿 萬葉ニハ侍宿ト書リ、文選注云

直謂宿禁中以備非常也

供奉人 禁將御出行ノ御供ノ者ヲ云

陪膳 天子御膳ノ給仕ヲ云

侍醫 天子ノ御脉ヲ診フ醫師ヲ云

師範 禁將ノ御師匠ヲ云

侍讀 東官御讀書ノ指南スル者ヲ云

清原家ヨリ参ズル則ハ孝經ヲ以テ最

初トシ菅原家ヨリ参スル則ハ文選ヲ

以テスト云云

有識 朝廷ノ作法ヲ知レル者ヲ云。但元ハ

故實銀鍊ノ博士ノ摠名ナリ

破官 禁中ニテ書記ノ者也。百官ノ下ニ

各サクハント云アリ。皆其官ノ執筆也

司外記官務ト云。院御所ニテハ主

典代ト号シ。武家ニテハ右筆ト云。義仲ノ覺明。頼朝ノ邦通。義經ノ辨慶。尊氏ノ妙玄。信長ノ楠正虎。秀吉ノ山中長俊等皆其職ナリ

兩局 大政官ノ左大史。左右ノ辨官ヲ兼ルヲ官務ト云。大外記ニ凡ノ中ニテノ上。藤ヲ局務ト云。是ヲ合テ兩局ト云リ。局ハ天下訴訟ノ文書ヲ納ルノ

御所ト云云

堂上 昇殿ヲ聽サレ。御殿ノ内ニテ事ルヲ堂上衆ト云。雲ノ上人是也。御殿ノ外ニテ奉仕スルヲ堂下ト云。地ノ下是也。昇殿不叶所以ノ名ナリ

前官 官ヲ辨シテ職事ニ預ラザルヲ云。故ニ座列ノ時モ當官ノ下ニ著也。臣下 朝廷ニ事ル大臣以下ノ惣名ナリ

侍臣 殿上人ヲ云

勅使 天子ノ御使者ヲ云

官幣使 奉幣使共云リ。神社エノ勅

使ヲ云

長奉送使 存宮群行ノ時。野宮ヨリ

伊勢ノ竹ノ宮マテ。見送ノ勅使ヲ云

院參衆 院御所方ノ公家ヲ云

眊近衆 武家エシタレキ公家ヲ云。鹿苑

院殿以來ノ例也

傳奏衆 天子エ公方家ヨリノ奏喜フ

執次ノ公家ヲ云

藏人 天子近習ノ職也。武家扈從ノ

如キト云

非藏人 藏人ノ外ニ要用駈使ナトノ為

撰家清華ノ外。其名アル家ノ子息。

六位ノ中ヨリ召出シテ。昇殿ヲ先聽

サ、ル、更トソ

出納シヨ 官名ニハアラズ。藏人シヨ所ニテ。出シ

納シヨヲ掌ツクル奉行也

極キョク薦シヨ 六位藏人ノ中ニテ。第一薦シヨヲ云。

天子ノ御服シヨヲモ賜ルニ依テ。麤シヨ塵袍

ヲモ著スト云

巡シヨ爵シヨ 極薦ノ五位ニ叙セラレ、ヲ云。其

時ハ他官ニ任シ。地卜ニ下テ。昇殿不カク協

ナリ。故ニ奉公ノ志アル者ハ。極薦ヲハ
去テ。他官ニ任ゼズ。新藏人ト称シテ。
極薦四人ノ末座ニ列ス。是ヲ還クニ昇シヨ
ノ殿上人ト云。其后格カク勤シヨノ功ヲ積ツクテ。
大中納言ニモ至ルノ例トソ

カトカト称シヨ 六位ノ更也ト公更根源ニ見エタリ

亡シヨ位シヨ 二三位ニ叙ストイヘ共。昇殿ヲ聽ユルサ

レガ、ルヲ云。吉田賀茂ナドノ神職ノ類

ナリ

祭主サイシュ 伊勢神官統領ノ人ナリ。長官ヲ

云。上古ハ神祇ノ大副ダイフノ兼職ニテ。貴人

多ク補之ニ。中古以來地下トイヘ共。補セ

ラル、夏ニ成レリ。故ニ一ニ三位ニ至ルト

云ヘ共。昇殿ヲ聽サレザルナリ。又出雲

杵築社ノ神職ヲ國造。春日ヲ杵宜チギ

賀茂。日吉ヲ神主。任吉ヲ社務ト云

旧例也トゾ

御曹司ミソウジ 局任ノ夏ナリ。近代ハ御方ミカタト云。

廣勻ヒロユ云曹局也云

冠者クラヤ 上下少年ニ因ズ。元服シテ既ニ

俗躰ノ定タル程ノ若キ者ヲ云。源氏

物語ニモ夕霧元服ノ後。冠者ノ君ト

云ルカ如シ。勻會云男子二十加冠日

冠云云

有職、冠

十五

國司コクシ 往古朝廷ヨリ天下ノ御政務有
シ時。大中納言ヨリ以下ノ人。一國エ一
人宛ツク。分チ下サレ。三十年ノ間。國ノ成敗タイバイ
ヲ執行トリレシ也。其在國首尾四年ノ
間ヲ。任限ニシゲト云。日本紀云。成務帝ノ四
年。始開國郡別封境置國造クニツクリ云云。皇
極コクノ朝。國造ノ号ヲ改テ。國司トシ。
文武ノ御宇。國司ヲ改テ。國守トセ

ラルトソ

受領ウケレウ 諸國ノツカサニ任スルヲ云。但所領
ヲ受ルノ美ナリ。大國ハ二町六段キ。上國
ハ二町二段。中國ハ二町。下國ハ二町六
段。是國司ノ受領成レトソ

延任ヒシ 受領ノ任限。前ニ記ヌ如ク四年也。
陸奥。出羽。太宰府ハ五年ト。兼和ニ
年七月定ラル。癸ミ共成敗ニ道有テ。ヨ

南畿小治

十五

キ國司ハ其任限ヲ延テ。久ク治ルラ
延任ト云也

前司 任限畢テ。既京ノ後。又他國ノ
受領ト成テ。二世ノ間。或ハ五ヶ國。或
七ヶ國ヲモ經歷シ。其勞悉終ルノ
時前司ト称ス。但何ヶ國ヲ歷ルトイ
ヘ共。家初ノ受領ヲ以テ。前司ノ上ニ
加ル例トソ

權守 是ヲ遙授ノ官ト云。俸禄ハ得レ
共。其國エ下向セズ。在京奉公ナリ。
但權守ニ任シテ下國スルハ。納言以
上ノ人ノ咎アル時ノ例ニテ。左遷ノ
義ナリ。納言以下ノ權守ハ皆遙授也
觀察使 上古此職八人ヲ置テ。五畿七
道エ分チ下シ。國司ノ政務。庶民ノ
安否。農桑ノ夏ナド。檢分セシメラレ

是ヲ狩ノ使ト云。在五中將モ此職ニ當リテ。伊勢エ下向有シ夏物語ニ見エタリ。中古以來断絶ト云

守護

頼朝卿捨追捕使ヲ勅許有シ以來。諸國ニ是ヲ置ル。其國ノ五十分一ヲ領シ。國府ニ有テ。國司ト相共一夏ヲ執行シトソ。畢竟朝廷ヨリノ國司ハ。文夏ヲ用テ。政務ヲ執リ。武家ヨ

リノ守護ハ。武備ヲ以テ非常ヲ征スノ義ナリ

押領使

國司ニアラズシテ。二郡三郡モ代々領スル者ヲ云。但王命ヲモ受ズ。押テ掠領スルノ義ニハアラス。隣邊ニ一揆蜂起ナドノ時。公命ヲ蒙リ。私ノ威武ヲ以テ。是ヲ平ケ。彼地ヲ勲功ニ領スルヲ云。奥御館秀衡ナドモ。六郡

ノ押領使タル由東鑑ニ見エタリ

探題 近世ノ所司代ノ如シ。遠境ノ政

所ヲ云。伏見ノ朝。永仁元年。北條兼

時筑前へ下向シ。西國ノ成敗ヲ司ル。

是ヲ鎮西ノ探題ノ始トス。其后北條

久時長門國エ下リ。是又中國ノ探

題ト成レリ。兼久ノ乱後。京都ニ兩六

波羅ヲ置。是ヲモ探題ト云

郡司 往古。一國ニ守。又。掾。目ノ四分

リ。一郡ニ大領。少領。主政。主帳ヲ置。則

大領以下ヲ郡司ト云。今ノ世。郡代職

ノ如シ。國司ノ指揮ニ隨ヒ。里村ヲ治

ル者ナリ。舊記ニ所謂出羽郡司安

藝大領ナドノ類是也

領家 公家ノ一郡二郡モ領セラレ

云。是ヲ本所共云サ。武家ニハ是ヲ地

頭ト云。○保司ホウジ一縣ケン一邑ニヤノ首長ヲ云。
中、華ニ所謂縣令ケンレイ。郵吏ユウリノ類ナルヘシ。○
莊司セウジ保司ノ類也。但往古國司守護
ノ下、知ニ預ラスシテ。今世ノ除地ノキチノ如キ
ナルヲ莊園セウエント云。由緒ユイジヨアル者。公命ヲ
蒙リ。此庄園ヲ食邑シヨクニヤトシテ在シラ庄
司ト云シトソノ檢断ケンダン探題タンテイナドノ下
司ツカサ。總奉行職ヲ云。○奉行 守護ノ下

司ヲ云。上ノ仰ヲ奉テ。下エ行フノ義也。
中、華ニ所謂吏務リム。監吏カンリノ類也。○在廳サイテイ
人ニシ奉行職ナドニアラテ。郡縣ノ内ニ
テノ人がマレキ者ヲ云。○朝夕チヨフ 奉行ノ
使令ヲ云。○伴下ヒナゲ 日本紀ニツカハレヨウ
ト訓ス。奴僕ツバチノ夏ナリ
大番オホバン 往古諸國ノ武士。交代カウタイニ在京シテ。
王城ノ警衛ケイエイヲ勤シヲ云。太平記ニ在

京ノ篝カバナドアルモ。此武士ノ警固ケイコノ美也トソ。嘉祿元年十二月。鎌倉ノ頼經卿幼少ニ付テ。遠江以下。十五ヶ國ノ御家人ニ課ツカセ。分限ノ多少ニ隨シヒ。西侍ノ勤番ヲ死シテ。御所ノ守禦シユギヨヲ設モツケラル。是ヲ大番ト号スルノ由。東鑑ノ脱漏ダツロニ見エタリ

内舎人ウチノドチリ 往古器量ノ侍。九十人ヲ選チテ

坂東エ下シ。武事ヲ修行ノ後。中務ノ被官ニナシテ。禁中ヲ守シメ。行幸ノ時ハ前後ニ供奉クダマシテ。非常ニ備ツクラル。故ニ成長ノ後モ。是ヲ規模キボトシテ。姓氏ニ内ノ字ヲ副ソクテ。源内。藤内。平内。善内ナト、自稱シケル支トフ。所謂足利義兼。伊賀家長。天野遠景ナトノ類是也。中古以來其美絶タテ。殿

上童ノ官ト成レリ

龍口 禁中宿直ノ侍也。院御所ニテハ

北面ト云。春宮坊ニテ帯刀ト云。名

異ニシテ茂全シ

北面 院御所ノ武官也。上北面ハ四五位

ノ諸大夫也。但院内ノ昇殿ヲ聽サル

トゾ。下北面ハ六位以下ノ侍也。白川

院御脱履ノ后。始テ仙洞ニ是ヲ置レ

直宿ニ充ラル。後鳥羽ノ朝ニハ北面ノ
外ニ西面トテ十人ノ侍ヲ選置ル。

兼久ノ乱後断絶云云

帶刀先生 春宮坊直宿ノ侍ヲ帶刀

ト云。其長ヲ先生ト云也

兩典廐 左右馬頭ノ唐名也。室町家以

來。公方家初官ノ如クニ成テ。他人ハ

是ヲ競望セズトゾ

使宣旨

檢非違使ニナサル、トノ宣旨

ヲ蒙ルヲ云。凡當職ハ武勇ノ功ニ授

ラル、義故。普代ノ侍規模トスル夏

トソ

鞞負

左右衛門ノ夏也ト花鳥餘情

ニ見エタリ

拍木

兵衛佐ノ夏ナリト八雲抄ニ見

エタリ

右左近尉

左右近衛ノ將監ノ事ヲ云。

將監ハ相當六位ナリ。叙爵ノ時、必

叙留スルノ例也。此時大夫將監ト称

ス。規模ノ羨也トソ

衛府長

雑色ノ長ヲ云。又六衛府トハ

左右近衛。左右衛門。左右兵衛ヲ云

外衛

右衛門ヲ云。禁中御垣ノ外ヲ

衛ルノ羨ナリ。和哥ノ詞ニ御垣モリ。

トノエモル身ナト云ル是也。兵衛ヲバ
 中ノ衛トテ。内ヲ衛ルノ官人ナリ
 看督長 檢非違使附屬ノ官人也。
 赤キ狩衣。白キ布袴ヲ著ス。往古
 ハ六十六人ヲ選ヒ。一州ニ一人宛。諸國エ
 分チ遣サレシ夏トソ。今世神社ニ
 閻神トテ。弓、箭ヲ帶セル像ヲ設
 ク。俚俗ハ矢、太臣ト云リ。是則看督

長也トソ

儀仗 鎮守府、將軍判授ノ官ナリ。重

代ノ武士ヲ選テ用フ。職掌ハ太政官ノ

史生ノ類トソ。東鑑ニモ宮、六儀仗時

平長井真盛外甥ト云アリ

律人 行幸ノ時ハ御先ニ歩、行シテ奔

走シ。常ハ禁中外門ノ警固ヲ勤ム。

大嘗會。元日ナトニハ。銅拍犬ノ傍ニ

在テ。犬^{イヌ}色^{ゴエ}ヲ成ス。盤^{ラン}觴^{セウ}八日。本紀ニ出

タリ。八雲抄ニハイヌ人トアリ

今^{イマ}良^ラ 主殿寮ノ官^{クニ}人。禁^{キン}庭^{テイ}掃^{ソウ}除^ヂノ

下^{シモ}部^ベヲ男^{ヲヒ}今^{イマ}良^ラト云。又後宮掃除ノ

婢^ヒヲ女^メ今^{イマ}良^ラト云

駕^カ輿^ヨ十^{テウ} 鳳^{ホウ}輦^{レン}ヲ昇^{ノボ}者^ヲ云。其^{ソノ}長^{ナガ}ヲ

諸^{シヨ}兄^{ケイ}ト云

被^ヒ官^{クニ} 其官々々ニ属^{ツキ}從^ニフ者^ヲ云。タト

へハ。大政官ノ被官。中務省ノ被官ナド

云是也

隨^{ズイ}身^{シン}兵^{ヘイ}仗^{ギョウ} 近衛府ノ下ニ將^{セウ}曹^{サウ}。府生。

番^{バン}長^{ナガ}アリ。是ヲ本府ノ隨身トテ。左右

大將ノ隨身ナリ。仙洞及^ニ拱^{コウ}関^{カン}大臣^{テイ}ナド

ハ。太刀ヲ帶^{オビ}シ給^{タマ}ハサル故。道路^{ドウロ}警^{ケイ}衛^{エイ}

ノ爲^{タメ}ニ兵^{ヘイ}仗^{ギョウ}ヲ賜^{タマ}ハル也。是ヲ隨身

ヲ給^{タマ}共^ニ云リ。都^{ミヤコ}テ兵^{ヘイ}仗^{ギョウ}トハ^ニ弓^{ユミ}箭^{セン}横^{ヨウ}

刀ヲ帶スル者ヲ云

小舎人 コド子リ 中少將ノ召連ル童ヲ云

譜代侍 フダイシ 往古ノ武士ハ源平ノ兩家ニ属セ

サル者ナシ。其子孫ヲ譜弟ノ侍ト云。

種系相續テ。其家ニ属スト云ノ義也。

又賀茂日吉ノ社家モ侍ノ列タリ

左門 サカド 伊織頼母 イオリモ 主米 ヌシメ 丹下 ニシゲ 數馬 カマ 久米 クメ

佐仲。求馬ノ類。朝廷ノ官員ニアラス。

平親王將門 チカサカ 僭稱有シ。百官ノ餘波ト

モ。又ハ鎌倉公方家 カマクラ 準据ノ官名也ト

モ云傳タリ。是非未詳

太郎 タロウ 往古地下ノ侍。イニタ任官セサル者

嫡子ハ太郎。二男ハ次郎ナト、稱ス。應

仁文明ノ比ヨリ天下擾乱シテ。衛門兵

衛ノ号ヲ猥ニ用フ。誠ニ官ヲ汚ノ義

可傷也ニコソ。源氏細流抄ニ父兵部

丞ナドノ嫡子。姓ヲ加テ。兵藤太ナド
云ル歟云云

陪臣 諸侯ノ家人ヲ云。俚俗ノ所謂又
者ノ義ナリ

家司 拱家清華ノ家長ヲ云

雜掌 大中納言以下ノ家長ヲ云

清侍 公家奉公ノ武士ヲ云

登庸 堂上家ノ官爵。往古ヨリ大槩共

家定レル先途アリトイヘ共。器量ノ譽
ナドニヨリテ。高位高官ニモ至ルヲ登
庸ト云。言備公。管道真公。粟田在衡
公ナドノ類也

叙爵 五位ニ叙スルヲ云。上古六位ニテハ
分際ニ應ジテ。月俸月給ナド賜テ位
田ナシ。今世俗云切米取ノ如シ。五位ニ
叙スル則ハ位田トテ田八町ヲ充テ行ル

轉リ。或ハ右ヨリ左ニ轉リ。或右大將ヨリ左大將ニ轉ルノ類ヲ云

直任 等ヲ越テ官ニ進ムヲ云。位ニテ

越階ト云カ如シ

再任 官ヲ辭シテ後。二度其官ニ成ル、

ヲ云

推任 推叙 公武共ニ其至ルベキ期ニ非

トイヘ共。故有テ天恩ヲ加ラシ早ク昇

進スルヲ云

任官 都テ官ヲ得ルヲ任ト云。職ヲ受

ルヲ補ト云

昇進 官ニス、ム度ヲ云。又位ニノホルヲモ

云ベシ

除授 官位ニス、ム度ヲ云

勅任 勅命ヲ以テ官ニス、ムヲ云

勅授 勅命ヲ以テ位ニ升ルヲ云。選叙令

云凡内外五位以上勅授。内八位外七位
上奏授外八位及内外初位皆官判
授云云

奏任 大政官ノ論奏ニ依テ官ニス、ム
ヲ云

奏授 大政官ノ論奏ニ依テ位ニノホル
ヲ云

判授 被官ハ職掌モ甚輕キ故ニ其官

府々々ノ衆議判ヲ以テ。天子エ奏聞
ヲ經ズ。大政官エ訴テ。官位ヲ授ル
夏也。是ヲ判任判授ナド云リ

贈官 贈位 贈爵 死テ後賜ル官位ヲ云
位署書 姓名ノ上ニ官位ヲ書列ルヲ云

官位ノ高卑。相當不相當ニ付テ。行
兼守ナドノ文字ヲ置夏。仔細繁多
ナルカ故畧之。夏物紀原。代醉編。拾

抄ナトニ見エタリ

尸書カキガキ

氏カハチ

骨書共書リ。位署書ノ時。

公卿ハ姓ト實名ヲ載ラル。參議及

四位以下ノ人ハ朝臣。真人。宿祿スツチナド、

書例也。是ヲ尸書ト云日本紀云天

武帝十三年十月。更改諸氏族姓等

作八色姓。以混天下五姓。一真人。二朝

臣。三宿祿。四忌寸。五道師。六臣。七連。

八種置云云猶姓氏錄拾茂ナトニ見タリ

姓氏 姓ハ先祖ヨリ相傳テ。百世ニ至テ

モ不更者ヲ云。縱ハ源平藤橘ノ類是

也。氏ハ子孫ニ至テ支流分レ在所ノ号ナ

トヲ付テ變ズルヲ云。又諸侯ヨリ家人

ナドニ姓ヲ授ルヲ族ト云。親族ニ類

スルノ義ナリ。會云。姓者所以繫統

百世使不別。氏者所以別子孫所出云

管見云凡曰姓曰氏其實一也。其中姓體而氏用也云云猶朱子語錄。夏文類聚ナトニ見エタリ

諡ヨリナ 禁將ヨリ公卿ニ至テ。在世ノ德業ヲ以テ称号ヲ進ラスルヲ云。呂望。周公始テ諡法ヲ立ラル。史記ニ見エタリ。說文云諡者行之迹也。白虎通云諡者別尊卑彰有德也

諡イミナシ

禁將ヨリ大臣ニ至テ御實名ヲ

云。左傳云生日名死日諡云云

實名ジツ 門迹方及堂上堂下ノ自称。俗

ニ云名乘也。字ハ假名也。縦タテバ仁木ハ

氏。四郎次郎ハ字。源ハ姓。義長ハ名也

實名也。餘ハ是ニテ知ベシ

當代公卿先途

拱家

近衛 九條 二條 一條 鷹司

右元服之時正五位下任少將。直叙正四位下。中將之時叙二三位。不歷參議任納言兼近衛大將。歷大臣至拱闕為先途。

清華

久我 轉法輪 華山院 西園寺 德大寺

大炊御門 今出川 今稱菊亭

右章跡之時侍從。自從五位下叙正五位下。元服之時從四位下。中將之時叙三位。多不歷參議任納言兼近衛大將。至大政大臣為先途。

諸大臣家

三條正親町 中院 三條西

右童躰之時從五位下。元服之時從五位上。侍從。四位中將之時任參議。至木臣為先途。

羽林家

正親町 阿野 中山 鷲尾 園 油小路

松本 姊小路東園 庭田 大官 四條

西大路

右童躰之時從五位下。元服之時從五位

上侍從。近衛次將之時任藏人頭。歷參議。至大納言為先途。

仝

四辻 小倉 武者小路

右童躰之時從五位下。元服之時從五位上。侍從。歷近衛次將。四位之時任參議。至大納言為先途。

仝

野宮 渚水谷 山科 飛鳥井 藪 今城

持明院 橋本 岩倉 園池 藤谷 六條

滋野井 上冷泉 難波

右童躰之時從五位下。元服之時從五位上侍從。歷近衛次將。叙三位任參議。

至大納言為先途

全

水無瀨 七條 中園 裏辻 梅溪

下冷泉 櫛司

右大槩全右。至中納言為先途

全

堀川 千種 樋口 綾小路 山本

右大槩全右任參議為先途

全

川鱒 梅園 花園

右大槩全右。叙三位為先途

全 庶流

田向

東久世

西郊

風早

愛宕

中川

佐々木

右大槩全右。但新家昇進未定

名家 日野流

日野

烏丸

柳原

廣橋

右元服之時從五位上侍從。自左右辨官兼藏人頭歷參議至大納言爲先

途。但近代屬權貴或叙一位。邂逅昇大臣。無念之義也

全 勸修寺流

勸修寺

清閑寺

甘露寺

桂

葉室

小川坊城

中御門

万里小路

右大概全右。但不任侍從

全 兩家庶流

芝山

梅小路

池尻

海任山

日野西

松崎

常盤トキハ

裏松

勘解由小路カゲユ

竹屋

右大概准右最モ昇進遙劣不在藏人頭

准名家

高倉

右元服之時從五位上侍從。歷參議至
大納言為先途

富小路

長谷

右大槩全右叙三位為先途

全

竹内

右歷六位藏人其外大槩全右

全 儒家

高辻

東坊城

五條

右元服之時六位歷參議至大納言

爲先途

全

廣橋

右全。至中納言爲先途

船橋

伏原 土御門

右大槩全右。元服之時。船橋。伏原者五位。土御門者六位。叙三位爲先途

倉橋

右歷六位藏人。其外大槩全右

白川

右羽林家也。神祇官之家而昇進各別之義也

大尾

有識小說下

四七終

元祿十一歲戊寅正月吉且

武江書林千鍾堂

須原茂兵衛藏版

